

第6章 表15 短期整備計画工程表

整備目的		整備内容	地区区分	～R4年度(2022)	R5年度(2023)	R6年度(2024)	R7年度(2025)	R8年度(2026)	R9年度(2027)	進捗状況・所見 (R7年度末)	課題点等	今後予定・所見 (R8以降)			
(1) 大阪城特有の価値・魅力を高める整備	1) 特別史跡大坂城跡の本質的価値に関連する整備	i) 豊臣期石垣公開に関連する	① 豊臣期石垣公開施設整備	本丸地区	工事	工事	工事	公開 報告書作成			<ul style="list-style-type: none"> 令和7年4月 大阪城豊臣石垣館をオープン 豊臣期石垣公開事業の事業報告書を作成 (R7補助事業) 豊臣石垣の保存管理について検討する「豊臣石垣保存管理検討会議」を立ち上げ今年度会議を開催 	<ul style="list-style-type: none"> 豊臣石垣を適切に保存管理している 	<ul style="list-style-type: none"> 豊臣石垣の保存管理について検討する「豊臣石垣保存管理検討会議」の継続開催 		
					発掘調査報告書作成	発掘調査報告書作成									
			② 金蔵に関連する徳川期遺構の整備	本丸地区	設計		工事	公開 報告書作成						—	—
			③ 馬印櫓、月見櫓間の雁木の整備	本丸地区	設計		工事	公開 報告書作成						—	—
	④ 金蔵の視認性の改善	本丸地区	工事		工事	公開 報告書作成			—	—					
	ii) 石垣等の危険等樹木の撤去含む	⑤ 徳川期石垣の現況調査	公園地区以外	測量調査	測量調査	測量調査	測量調査	石垣カルテ作成・測量調査	石垣カルテ作成・測量調査	<ul style="list-style-type: none"> 令和7年度までは高石垣を中心とした測量調査を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 残り全ての石垣の測量調査をR8～R9で実施する。 石垣修復検討会議の中でカルテの内容精査を行い、石垣カルテの作成を進めていく。 				
				内堀／南外堀北面／西外堀東面／北外堀南面	東外堀西面／南外堀南面	南外堀南面／西外堀西面	北外堀北面／東外堀東面	<ul style="list-style-type: none"> 石垣カルテ 天守台/内堀/南外堀 測量調査 天守台/北外堀北面/東外堀東面 	<ul style="list-style-type: none"> 石垣カルテ 北外堀/西外堀/東外堀、雁木等 測量調査 雁木等 						
		⑯ 内堀北東部水敲き石垣の修復	内堀地区				方針確認	ボーリング調査 発掘調査	解体設計・工事 修復設計	<ul style="list-style-type: none"> R7.5に当該石垣の一部の落下を確認したことから、優先的に整備する必要が生じた。R2年度3次元データから変位がほぼないとみられるポイントが多いことから石垣そのものが沈下しているという状況ではないと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 落下した石材について、車両が近づけないことから、現地に残置。 内堀の水敲き石垣は間詰の抜けが目立ち、今後同様のゆるみによる影響が生じる可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 石垣修復検討会議の中で補修の内容精査を行い、修復を進めていく。 			
		⑥ 一番櫓南雁木の修復	二の丸南地区					方針確認	設計					<ul style="list-style-type: none"> 内堀北東部の石垣(上記⑯)の修復を優先して進めるため、R9以降に検討を実施する。 	
		⑦ 玉造門西雁木の修復	二の丸南地区							検討		<ul style="list-style-type: none"> 内堀北東部の石垣(上記⑯)の修復を優先して進めるため、R9以降に検討を実施する。 			
iii) の歴史的保存的修復建造物		⑧ 重要文化財等の消火設備の改修	本丸地区・二の丸南地区・二の丸北地区・二の丸西地区		工事						完了				
2) 近代以降の歴史資産の保存活用	⑨ 旧第四師団司令部庁舎の改修	本丸地区				設計	工事			計画通り					

第6章 表15 短期整備計画工程表

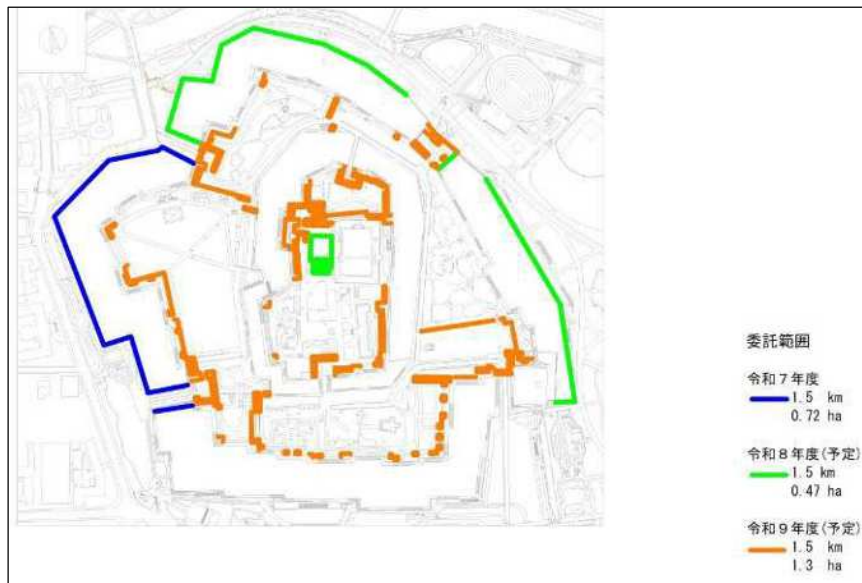
整備目的		整備内容	地区区分	～R4年度(2022)	R5年度(2023)	R6年度(2024)	R7年度(2025)	R8年度(2026)	R9年度(2027)	進捗状況・所見 (R7年度末)	課題点等	今後予定・所見 (R8以降)
(2) 来訪者が安全かつ快適に利用できる	1) 安全性の向上	⑩ 通信環境の整備	本丸地区		検討	検討	検討・整備			・通信環境改善の対象エリアや設備機器の規模を見直し、既存建物を活かした設備設置等、より史跡景観配慮した整備とした。 ・現状変更承認と工事占用許可を得て、2月より着手し施工中。 ・令和8年2月に整備が完了し、1キャリアの電波発信。		・他2キャリアの開通を引き続き進めていく。
	2) 快適性の向上	⑪ トイレの改修	全域	においの森/梅林/少年野球場	極楽橋下/大手前売店横/森ノ宮/弓道場横	大手前/もみじ広場/太陽の広場				完了		
		⑫ 桃園・梅林の園路整備	外堀外縁北東地区・二の丸東地区			工事	工事			完了		
	3) 夜間景観の整備	⑬ 大阪城ホール前の照明設備改修	公園地区			工事				完了		
		⑭ 極楽橋ライトアップ	内堀地区				検討	検討	検討・整備		・整備内容、仕様について検討中。	・相当の整備コストが見込まれるため、規模や仕様など見直しが必要
(3) 効果的な情報発信	⑮ 大阪城の見どころ解説資料の作成	全域				検討・作成・公開				・大阪城公園のホームページに園内の見どころ情報や指定文化財をめぐるルートについて解説とともに作成し掲載公開を実施。 ・「大阪城ゆかりの地マップ」として、①大坂の陣編、②幕末・維新編、③大阪城の石垣編の3種を作成し、大坂城とその周辺のゆかりの場所やその歴史について解説したリーフレットを作成し発行。(HPにも掲載) ・大阪城 豊臣石垣館の開館に合わせて、案内リーフレットを作成し発行。(HPにも掲載)		
	⑯ 特別史跡標識・説明板の設置	外堀外縁南西地区				検討	検討	検討	設計	・史跡標識、説明板の設置場所、基本的な仕様の検討	・詳細仕様、整備スケジュール、各部署の役割分担の検討	・整備イメージ案を作成し整備内容を推進会議で検討していく。
	⑰ 史跡等解説における多言語化・デジタル技術の活用	全域		多言語対応解説板設置 (R1年度)	解説動画・映像コンテンツ作成	シアタールーム映像機器改修				・園内の史跡解説板に、多言語に対応する二次元コードを掲出。関心が高い重要文化財建造物の解説板に二次元コードを掲出し、動画による解説サービスを提供。(史跡スポット20か所、その他スポット18か所) ・大阪城天守閣所蔵品の魅力や大阪城の歴史を伝える高精細の映像コンテンツを作成し映像設備の改修を実施。		
	⑱ 大手口における園内情報の発信	外堀外縁南西地区				検討	検討	検討・整備	ニーズ調査	・観光案内所に必要な機能を整理した上で、場所や仕様を検討していく。設置場所は大阪城の景観を害さない場所を選定する。		・観光案内所の機能、場所、仕様等を整理し、推進会議で検討していく。

⑤徳川期石垣の現況調査

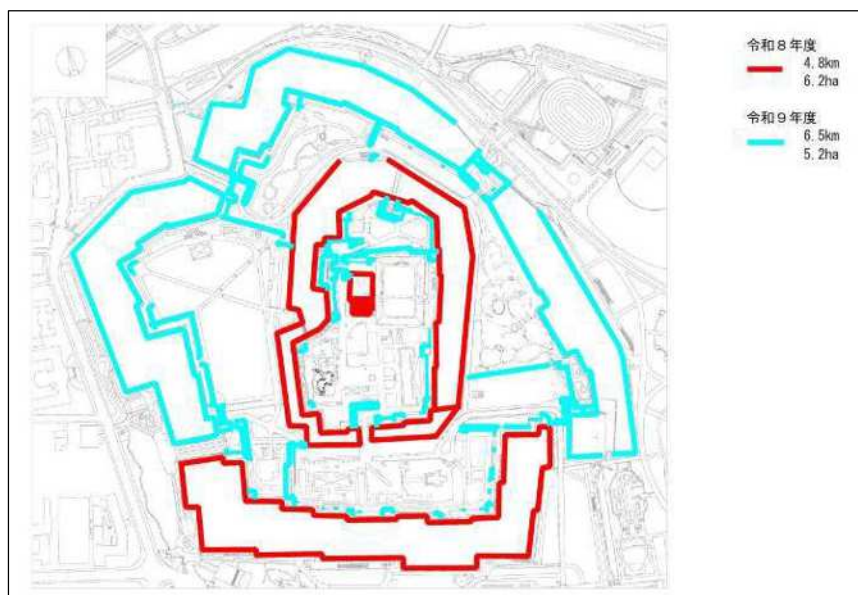
石垣カルテ作成ならびに石垣測量調査について

令和8年度から2か年で、未実施となっている石垣の測量調査及び石垣の現況解析・カルテ作成を実施する。令和8年度は北外堀、東外堀および天守台について測量調査を実施する。令和9年度は、門、櫓台等について測量調査を実施し、併せて現状解析およびカルテ作成する。

<測量調査範囲>



<カルテ作成範囲>



大坂城跡内堀石垣（石垣No.403）き損箇所の現況調査（2025. 08. 28 調査）



転落防止柵の基礎下の捨てコン・砕石の下部に空洞ができている
→ 園路への影響が生じる可能性があるため、早急に応急措置が必要か



転落防止柵の基礎下は栗石等が詰まっております安定している



【き損内容】

- ・石垣の笠石が1石堀内に落下した。

【き損箇所の状況】

- ・落下した笠石とこの下1段分は、戦後に積み直しされたものとみられる。
- ・積み直しされた際の裏込めには、礫混じりのコンクリート片を含み、あまり密には詰められていない。（き損箇所とその周辺、北西のNo402石垣の裏込めも同様）
- ・モルタル舗装施工時に入れられた盛土は大半が流出している。モルタル舗装下の広い範囲が同様の状況で、モルタル下の栗石との間が空洞になっている。
- ・き損箇所では、一部、転落防止柵の基礎下にまで空洞が生じている。

【周辺の地形と排水状況】

- ・当該石垣に面した園路は、写真奥の梅林側の園路より1段低くなっている。
- ・き損があった箇所は、このなかでも最も低い部分にあたる。南側からの雨水は排水溝・会所→埋め込まれた塩ビ管を通じて堀内に排水される仕組みとなっているが、北側からおよび梅林側の盛土斜面からの雨水はき損箇所周辺に集まりやすい状況になっている。

【今回のき損の要因】

- ・周辺の雨水が集まりやすい位置であることから、雨水の影響による裏込めや間詰め流出などにより、落下石材下部の築石が堀側へ傾いたことによるものと考えられる。

【今後の対応】

- ・園路下に空洞が生じていることから、早急に安全確保のための措置は必要と考えられる。
- ・周辺部も間詰め抜けなどが目立ち、今後同様の損傷につながる可能性があることから、間詰め補充等による補強や、傾きが見られる箇所の前面へ蛇かごを設置するなど、何らかの対応が必要と考えられる。その際には、周辺の排水のあり方についても検討が必要。

大阪城公園もと博物館（ミライザ大阪城）

屋上笠木改修について（完了）

令和8年3月
建設局公園緑化部公園課

大阪城公園もと博物館（ミライザ大阪城）屋上笠木改修について

■ 事業概要

- ・ 大阪城公園もと博物館は、昭和6年に市民の寄付により建築され、陸軍第四師団司令部庁舎、大阪府警本部などとして使用され、昭和35年から平成13年まで大阪市立博物館として多くの市民に親しまれてきた。
- ・ 平成29年に経済戦略局から建設局に移管され、現在は指定管理者により複合施設（ミライザ大阪城）として運営されている。
- ・ 令和3年に屋上笠木の一部が崩落し、応急措置は行っているものの、建築後90年以上を経過して老朽化しており、このままでは人的被害など重大な結果を招くおそれがあるため、改修工事を実施する。

■ スケジュール

- ・ 令和5年度：概算・予算要求
- ・ 令和6年度：設計
- ・ 令和7年度：工事

■ 予算

- ・ 令和6年度設計：3,500千円
- ・ 令和7年度工事：106,000千円

■ 課題

- ・ 安全管理上、再度の崩落による事故のリスクを解消する必要がある。
- ・ 将来の有形文化財登録を視野に、文化財としての価値を極力損なわないよう、保存に努める必要がある。
- ・ 文化財としての価値及び観光施設としての観点から、景観を損なわない施工方法を選定する必要がある。

■ 改修が必要な状況



◆ 施設外観



◆ 笠木崩落状況

大阪城公園もと博物館（ミライザ大阪城）屋上笠木改修について

■現状の資材について

- ・ 既設化粧中空テラコッタ笠木は、伊那製陶製（現LIXIL）
- ・ 笠木については、ひとつの部材が長さ50cm程度、巾40cm程度、高さ20cm程度であり、延べ長さ300mを超える範囲に施工されている。
- ・ 現状の笠木については、ミライザとして改修した以前より破損した部分をモルタルにより補充しており、すべては残っていない。また、クラックの生じた部分に防水シートを施工するなどの応急措置もされている状態。

■テラコッタについて

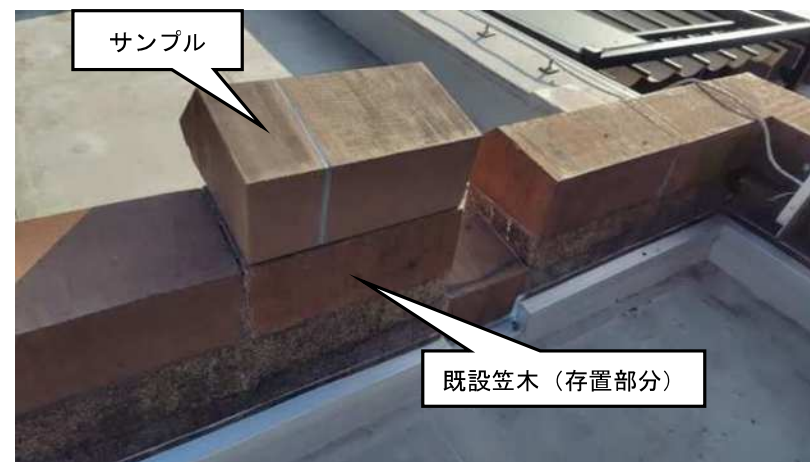
- ・ 関東大震災（1923年）以降、耐震性が求められRC造の建築が普及したことに伴い、建築装飾として一般化。第二次世界大戦の頃まで使用された。
- ・ 建築用の窯業製品（やきもの）のうち、モルタルで施工される比較的小型の平板状のものがタイル、引き金物で固定されるような大型のものがテラコッタとされる。

■改修内容について

- ・ 既設テラコッタ笠木を取り外した上で、改修資材で復旧する。
- ・ 万一崩落しても人的被害が生じない部位について、一部既設のまま存置とする（P7参照）。また、取り外した既設資材は一部保存を行う。
- ・ 改修資材については、他の資材と比較検討の結果、外観を既設に合わせることが可能であることから、EPS（発泡ポリスチレン）にコーティングを施した資材である化粧外装材を採用する。



既設笠木の現状（モルタル補修）



サンプル確認状況（※目地は仮のもの）

大阪城公園もと博物館（ミライザ大阪城）屋上笠木改修について

■改修資材の取り付けについて

- 改修資材の取り付けは、金物と接着剤の併用。
- 改修資材は軽量であり、金物は直径5mmのコンクリートビスにより取り付けるため、既存躯体への影響は軽微である。
- 接着については、既設躯体に下地調整を施した上で行う。



※メーカーHPより

■既設資材（テラコッタ）の取り付けについて



- 既設の取り付けは、テラコッタ下部のモルタルにより接着しているほか、番線によっても固定されていた。
- テラコッタの断面（四隅）にダボ穴が施されており、ダボと躯体に設けられたフックを番線で止付けるようになっていた。

大阪城公園もと博物館（ミライザ大阪城）屋上笠木改修について

■改修資材の耐久性について

- 改修資材は、EPS（発泡ポリスチレン）にコーティング（アクリルベース系混合材、セメント、珪砂の混合）を施した資材である。
- コーティングにより表面強度を確保すると共に、紫外線からEPSを守り、耐久性を高める。
- カラスが多いためメーカーに確認したところ、鳥獣による被害は確認されていないとのこと。

ARDECOの耐久性は、独自の下地塗材にあり

インターデコムは、創業 23 年です。アルデコも創業時から製造・販売をさせていただいております。その中で、2022 年現在、アルデコの劣化が原因で、取り換えを行った例はありません。アルデコ製品の耐久性能は格段に高いです。

その秘密は、基材となる EPS(発泡ポリスチレン)を弊社独自の製法を持つ、下地塗材「ネフ」で覆うことによって、製品の経年劣化を抑えていることです。

「ネフ」は、基材に活着し、硬化することによって紫外線を通さず劣化を防止します。気温の変化による基材の膨張・収縮に対応しますので、製品

(基材)が屋外で受ける様々なダメージから守ることができます。

そのため、一度アルデコを使っていた建物のリノベーションのご相談は、なかなか頂戴できないのが当社としては嬉しい反面、寂しくもあります。その代わりに、既存の建物のリニューアルのお話は沢山いただいております。

建物全体または部分的なリニューアルや既存製品の入手が難しく代替品を探しているなど、多種多様なニーズにアルデコは応えています。

リニューアルをお考えの際やお困りの事があれば、是非弊社へご相談ください。

Interdecocom

※メーカーHPより

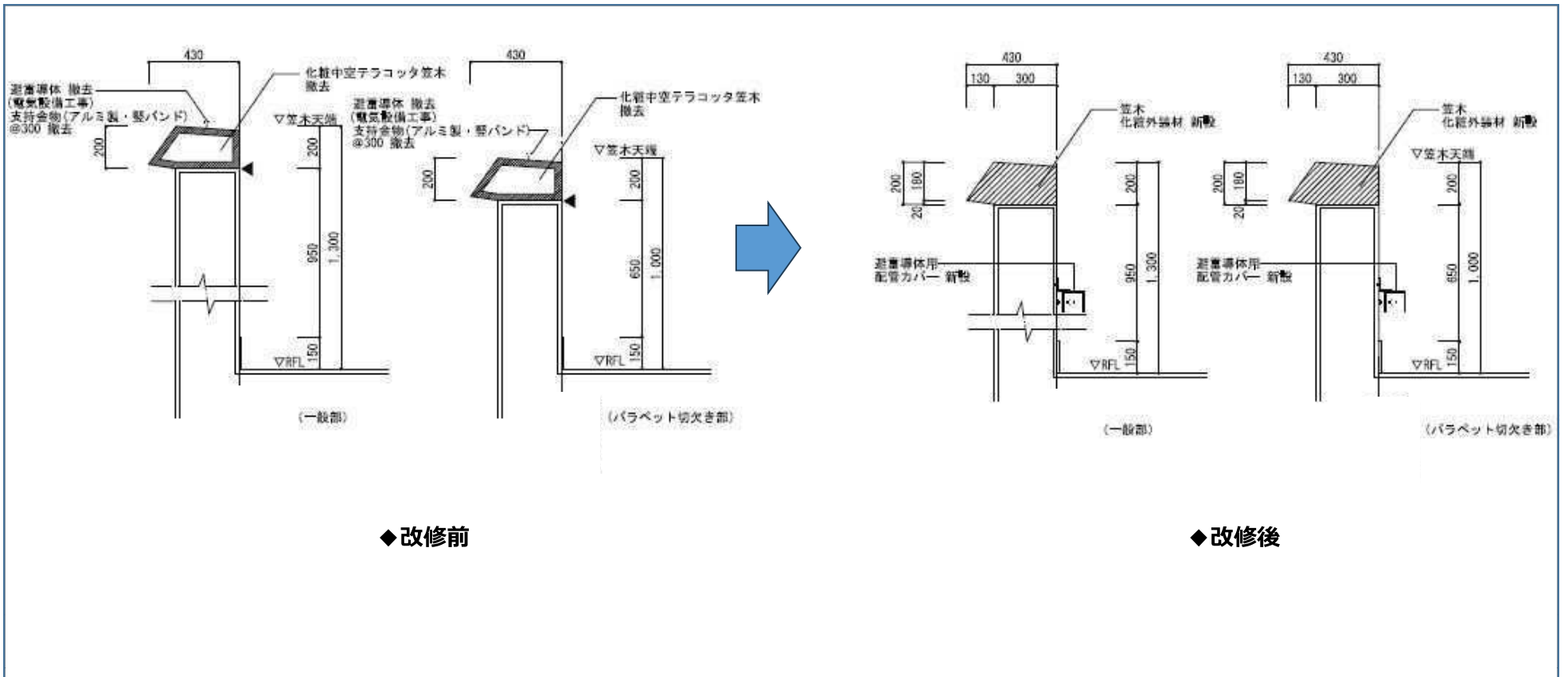
■既設部分の洗浄について

- 笠木改修部の下部吹付部及び下層石目調部分について洗浄を行う。
- 洗い後の吹付直しは行わないため、既存仕上をき損しないよう最低限の洗浄とする。
- 洗浄する石目調部分については、正面（西面）及び南北面とし、正面ゲート部分を含む。

大阪城公園もと博物館（ミライザ大阪城）屋上笠木改修について

■改修概要

- 老朽化している既設化粧中空テラコッタ笠木を撤去のうえ、外観（断面形状、色調）を合わせた化粧外装材（EPS製）を新設する。
- 上記に伴い、工事影響範囲となる既設避雷設備の改修を行う。



大阪城公園もと博物館（ミライザ大阪城）屋上笠木改修について

■改修前写真



笠木補修状況（西面）



笠木補修状況（東面）



笠木補修状況（北東角）



笠木補修状況（南東面）



笠木補修状況（西面）



笠木補修状況（西面）

大阪城公園もと博物館（ミライザ大阪城）屋上笠木改修について

■改修資材取付状況



笠木改修後（北面）



笠木改修後（北東角）



笠木改修後（西面）



外壁側より

大阪城の通信環境整備 完成報告

大阪市経済戦略局



通信環境整備の概要

- ミライザ屋上2か所に基地局を整備
- 基地局は薄灰茶色で景観塗装
- ソフトバンクは電波状況改善済み
- ドコモ・KDDIは次年度にアンテナを設置



アンテナの見え方（塔屋南東側）



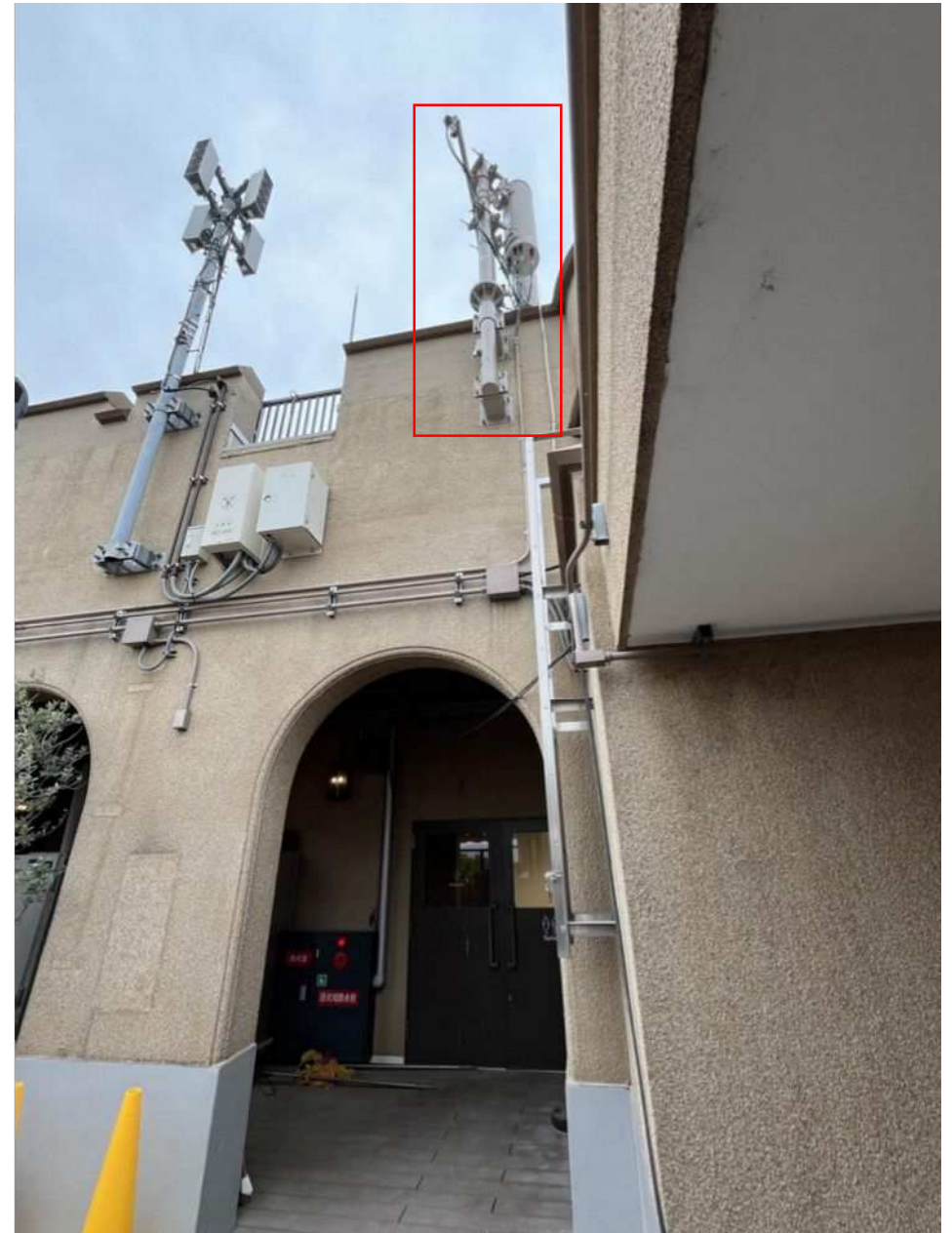
アンテナの見え方（塔屋南東側）



アンテナの見え方（塔屋南東側）



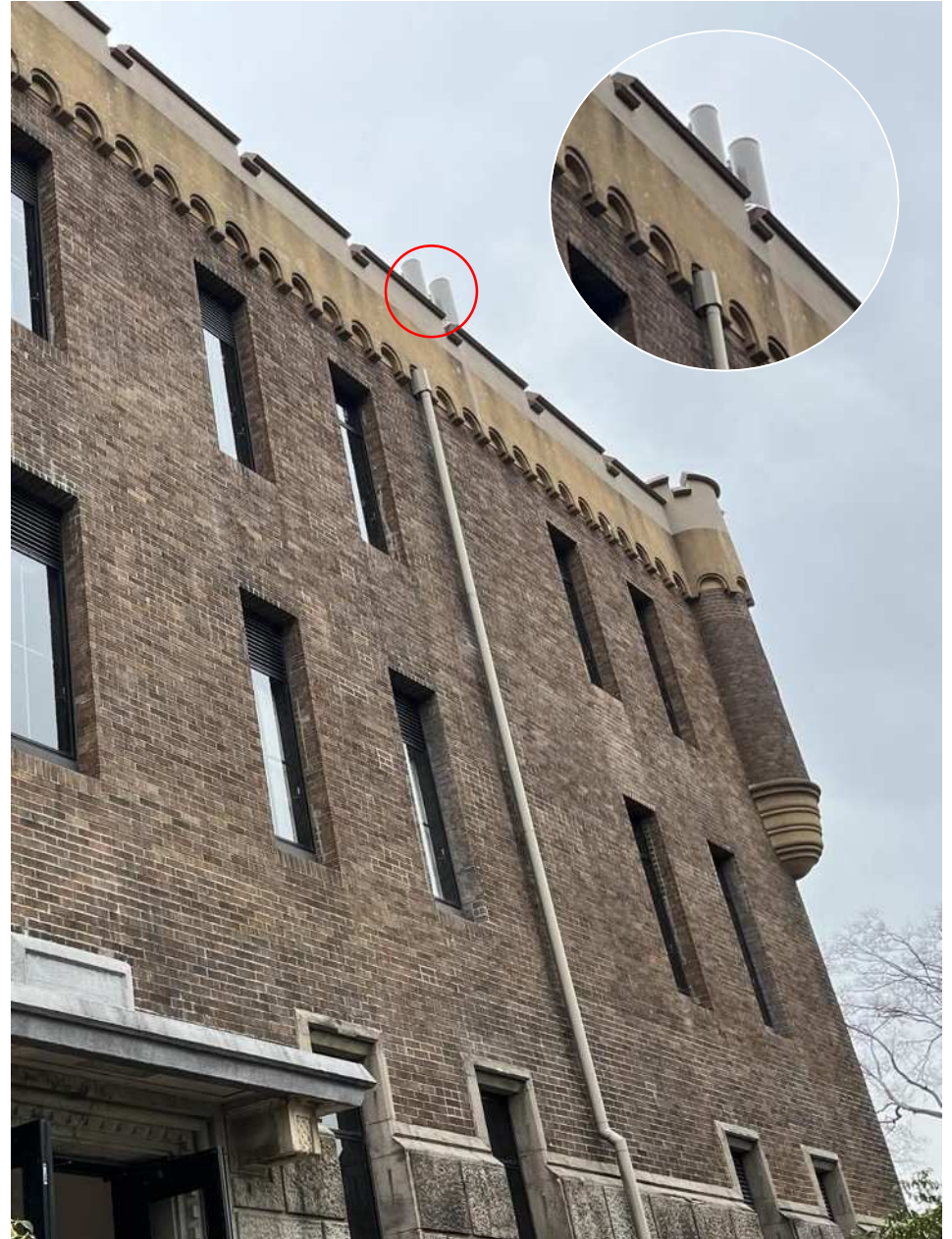
アンテナの見え方（塔屋南東側）



アンテナの見え方（南側壁面東側）



アンテナの見え方（南側壁面東側）



アンテナの見え方（南側壁面東側）



極楽橋 ライトアップ

大阪市経済戦略局

ライトアップの現状

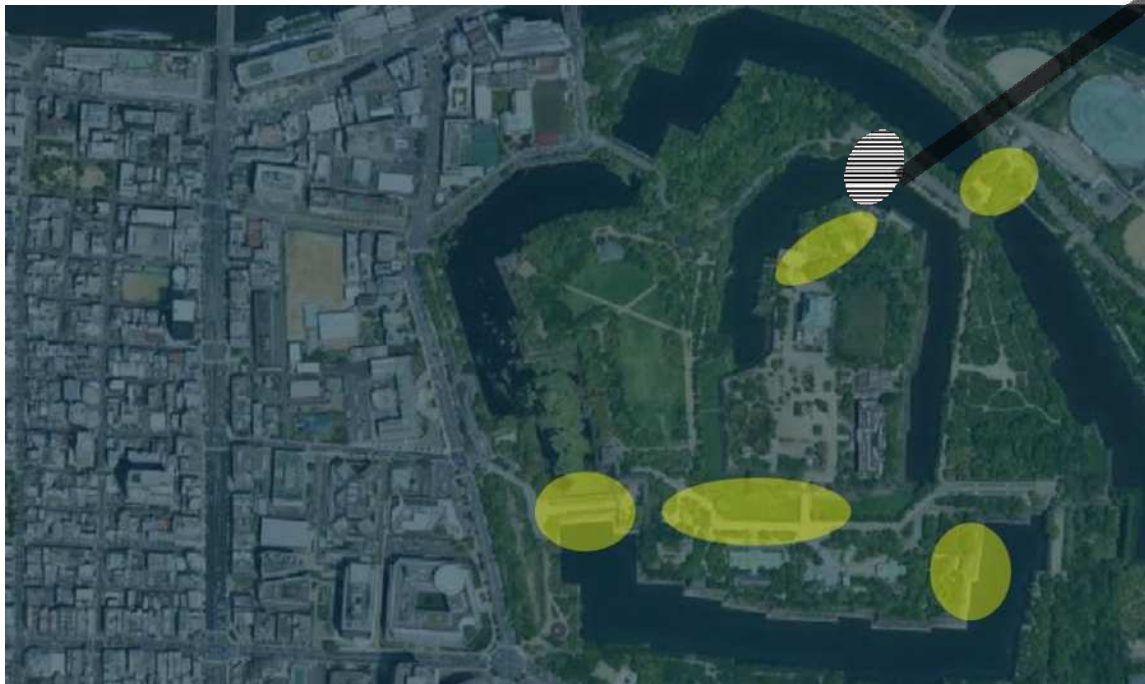
<ライトアップの基本方針>

- 天守閣に至るルート各所において、景観に配慮したライトアップを行う。
- 夜間でも大阪城の象徴である石垣が持つ本来の美しさを見せられるように照らす。
- 石垣を照らす光の反射を活用して、歩行路の明るさを確保する。



極楽橋の現状

主要動線のうち、
極楽橋のみ、照明が整備されていない。



天守閣を正面にして堀前から極楽橋を撮った写真



周りや足元が見えない程暗い。



安心安全な通行に支障がある。

極楽橋のライトアップ計画

基本方針

- 色温度は3000K相当の単一色を基本とする。
- 石垣の対岸から投光器で照射する。
- 石垣に反射する光で橋の歩行面を照らす。
- 寿命超過後に部品交換で修繕できる器具仕様とする。

懸念事項

- 橋の歩行面の手前側は十分な光が届かないのではないか。
- 橋上にスポットライトを付けられるか。
- 橋上にスポットライトを付ける以外で明るさを確保できる手段があるか。

実地調査で確認



スポットライトなし



スポットライトあり



大手口土橋正面



大手前広場（南から北方向）



大手前広場（北から南方向）



大手前広場南端（WC・ローソン周辺）



地区区分図

【標識の仕様】

- ・材質は石材を基本とする。
- ・標識には、史跡名称、指定年月日、建設年月日、文部科学省の銘記

【説明板の仕様】

- ・指定等の名称、指定年月日、指定等の理由、説明事項、保存上注意すべき事項、指定に係る区域図

*文化庁「史跡名勝天然記念物標識等設置基準規則」より

【外堀外縁南西地区整備方針】 地区区分図：オレンジ色の地区

(特別史跡標識、説明板の整備)

大阪城の表玄関に当たる大手前広場内にふさわしい場所を選び、史跡名称、指定年月日、建設年月日など、文部科学省の基本情報を銘記した石製の標識を設置するとともに、大阪城全体をわかりやすく解説した説明板を設置する。説明板では史跡の範囲を明示する。



松本城 史跡解説板



松江城 史跡標識



篠山城跡 史跡標識・史跡解説板



松本城 史跡標識



小田原城 史跡標識

【参考事例：他史跡における史跡標識・説明板】

観光案内所の設置について

⑱大手口における園内情報の発信

これまでの経緯

JO-TERACE及び森ノ宮噴水広場には案内所があるが、正面玄関である大手前エリアは未整備な状況にある。



特別史跡大坂城跡整備基本計画において、「来訪者向けに案内所の整備を検討する。」と記載している。



サービス

インタラクティブな案内

- 所要時間や目的に合わせた観光ルートの提案
- ボランティアガイドと連携した歴史理解の促進
- 近隣施設への観光誘導
- インバウンド向けの多言語対応

観光施設として必要なサービス

- 迷子の受付、拾得物の一時預かり
- 公園内のイベント情報の提供、パンフレットの配架

問い合わせの多いサービス

- 公園内施設・トイレ・コンビニなどへの行先案内
- 園内交通システムの駐車場・ルート・料金の案内

案内所を通じて観光客のニーズを吸い上げ、今後の観光施策に活かす。

大手広場に観光案内所を設置する。
設置場所については、大手口土橋堀前を除いて検討する。